

## Happiness Meeting 2019 報告

主任 一ノ瀬正樹



(Happiness Meeting 2019 当日の様子)

武蔵野大学しあわせ研究所の活動の一つとして、毎年 Happiness Meeting を開催しています。今年度は令和元年9月18日に第4回目を有明キャンパス3号館にて実施いたしました。例年同様、まずは研究所所長の西本照真先生より開会のご挨拶をいただいた後、「しあわせ研究」の今年度採択者を中心に、ポスターセッションという形で、計28件の研究発表が行われました。研究発表数は昨年よりも増えて、武蔵野大学における「しあわせ研究」が年を追って定着しつつあることが窺われました。

同時に、第5号となる「Creating Happiness 賞」の授賞式も執り行われました。この賞は、しあわせ研究所の発足とともに創設されたもので、日々の生活の中で実際に幸せをカタチにした教職員や学生に贈られます。今回は、「武蔵野鉾山プロジェクト」と称する活動が受賞されました。これは、本学工学部の高橋和枝教授、環境システム科学生の本田晃大さん、塚崎理至さん、松田直樹さん、本学付属千代田高等学院校長兼任の教育学部の荒木貴之教授、千代田高等学院生徒の菊池隆聖さん、小原優

士郎さんが実践した活動で、武蔵野・有明両キャンパスおよび千代田高等学院やその周辺において、不要となった小型家電を回収したりしてオリンピックのメダル用材料として提供するという趣旨のプロジェクトです。約3トンの廃小型家電を回収することができました。しあわせ研究所が重視しているSDGsの理念にも合致した実践活動で、地道ながらも非常に前向きな企画であり、その成果を大いに称揚したく、しあわせ研究所として賞の授与に至ったという次第です。また、ポスターセッションの方もとても充実した内容で、それぞれのポスターに関して真摯な質疑や議論が行われました。ポスター発表の内容は、文学、法学、経済学、臨床心理学、環境システム学、教育学、薬学、看護学、と本学を構成する諸分野にまんべんなく渡り、しかもきれいにわかりやすく提示されておりましたので、順に見ていくだけでも本学の「しあわせ研究」の進展の様子が伝わってきました。本学のカリキュラムにおいてもSDGsが主題として設定されることになり、全学を挙げて「しあわせ研究」に向かう機運が高まっています。「しあわせ研究所」が扇の要として機能していくことを願っています。最後に副所長の池田眞朗先生より閉会のご挨拶をいただき、本年度も充実した Happiness Meeting を終えることができました。